

■ 現行計画における施策体系

分野	分野別の目標	基本的な方向
1 生涯学習	1 いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実	(1) 多様な講座や学習機会の提供・充実
		(2) 学習や活動ができる環境の提供
		(3) だれでもが学習・活動しやすい仕組みづくり
		(4) さまざまな学習活動を支援する区立図書館づくり
	2 一人ひとりの学習や活動を支えるための情報提供、相談体制の整備・充実	(1) 学習情報の収集・整理
		(2) 分かりやすい情報提供
		(3) 相談体制の整備・充実
		(4) 地域における情報拠点となる区立図書館づくり
	3 区民・団体の主体的な活動の支援	(1) 主体的な活動を支える仕組みづくり
		(2) 活動成果披露の場の充実
		(3) 人材育成の推進
		(4) 人材活用の推進

■ 現行計画における目標ごとの課題認識

分野別目標1 いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実

- 課題① 区民一人ひとりのニーズに対応できる学習機会の提供・充実
- 課題② 学習や活動のための場所の確保・充実
- 課題③ だれでもが学習・活動ができる配慮・仕組みづくりの推進
- 課題④ 学習の場所としての図書館機能の充実

分野別目標2 一人ひとりの学習や活動を支えるための情報提供、相談体制の整備・充実

- 課題① さまざまな学習・活動のニーズを満たす情報収集・整理
- 課題② 分かりやすく、入手しやすい方法での情報提供
- 課題③ 気軽に相談できる機会・場の提供
- 課題④ 情報提供の拠点としての図書館

分野別目標3 区民・団体の主体的な活動の支援

- 課題① 主体的な学習・活動を支えるための仕組みづくり
- 課題② 学習・活動の成果を披露する場の充実
- 課題③ 区独自の資格制度(生涯学習司など)による人材育成と活用
- 課題④ 地域の学習・活動経験者の知識等を活かした人材活用の推進

■ 分科会・アンケート・社会動向に見られる課題認識

1. 区民目線の課題(第1回分科会での意見より)

- 〈学ぶ〉 ○講座参加者が固定化されており、男性・若者の参加が少ない。
○子育て世代の講座参加者が少なく、託児サービスも行き届いていない。
○大学連携講座に対する要望が、講座内容に反映されにくい。
○サークルの情報が得られず、サークル自体が閉鎖的なため、新規参加に壁がある。
- 〈活かす〉 ○支援者(生涯学習司、地域文化インタープリターなど)が固定化・高齢化し、新しい人材が少ない
○養成講座を定期的開催し、支援者の増加・レベルの向上を図る必要がある
○学ぶことからそれを活かすようになるための壁が高い。
○習得したことやサークルの発表の場やアウトプットができる機会がない。
○区内の人材を把握できておらず、十分に活用できていない。

2. 推進主体目線の課題(第1回分科会での意見より)

- 〈学ぶ〉 ○講座の実施方針として、参加者ニーズに応じて採算性を確保することと、社会的・時代的な意義を重視することのバランスが難しい
- 〈活かす〉 ○支援者養成講座の参加者数が少ない

3. アンケートから得られる課題

- 〈学ぶ〉 ○学習意欲を持ちながらも、講座に参加できない人が多い。
○区に対して「より魅力的な事業・イベントを行う」こと、「区民が参加できる事業・イベントを増やす」ことが求められている。
○「事業・イベントの情報を入手しやすくする」ことも多く求められている。
- 〈活かす〉 ○自分の知識・能力を他人や地域に活かしたことは少ない。
○活かしたいが、機会がないという人が少なくない。
○区には、コーディネーターの充実、情報提供、人材登録制度の推進が求められている。

4. 社会動向から導かれる課題

- 超高齢者社会における生きがいづくり
 - 単身世帯の増加・無縁社会における地域コミュニティの活性化
 - 第2期教育振興基本計画(国)
- 〈基本的方向性〉
1. 社会を生き抜く力の養成
 2. 未来への飛躍を実現する人材の育成
 3. 学びのセーフティネットの構築
 4. 絆づくりと活力のあるコミュニティの形成
- 区立図書館サービス向上委員会(文京区)

■ 課題のまとめ

- ◎より広い層の区民が講座に参加できるようにする
- ◎学ぶことと、学んだことを活かすことをスムーズに接続する
- ◎支援者のすそ野を広げ、多様な知識・能力を持った人を活用する
- ◎団塊の世代が学ぶ機会を提供する
- ◎分かりやすい情報提供を工夫する
- ◎学ぶ人たちからなるコミュニティを形成する
- ◎生涯学習の場としての図書館と連携する